

～10号—2013年11月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

訪問サポートカネット・代表藤原宏美

★誰かとつながりましょう。—それが社会参加のはじまりです。★

どうしたら子供が学校へ行くようになるのでしょうか、どうしたら就職して社会に出られるようになるのでしょうか、せめてバイトでもしてほしい、というご相談が多いです。家族の切なる願いだと思います。

親が子どもに対してどういう態度で接して、どういう言葉をかけたら子どもが親の気持ちをわかってくれるのでしょうか。

どこかに子どもを説得してくれる人はいないのでしょうか。そういう気持ちで一杯だと思います。

学校に行った方がいい意味や、せめてバイトでもしてほしいと願う親の気持ちを何とか伝えたい。それがあなたのためだという事を必死に伝えようと思しますが、伝えれば伝えるほど子どもは離れていきます。説得ではどうにもできないのです。

この問題の本質は「社会参加」です。社会参加というのは、家族以外の人たちとかわかっていくということです。そのためには家族ではできない役割があります。自分を受けとめてくれる人が一人でもいれば、「この自分でいいのだ」と思えます。それが家族ならば、家の中に安心していられます。

家族以外の人から受け入れられたならば、なおさら自信がきます。それが自己肯定感につながり、安心して外の世界に向かいます。社会というのは学校や職場だけではありません。

メンタルフレンドもその役割のひとつです。まず、ひとりの人を安心できるようになれば、この人も大丈夫かも、あの人も大丈夫かも、と安心が広がります。

近所の人、コンビニの店員さん、電車で向かいに座っている人に対して、そして少しずつ身近な地域社会の中に安心していられるようになっていきます。そして、その安心感が学校や職場復帰につながっていきます。

一度ご相談にいらしてください。

居場所づくりのいまとこれからを考える

松田武己

セルフサービス型カフェと称する交流の場を考えました。

引きこもり状態から人と関わり、社会のペースを感じて少しずつ社会に入るには、それに適当な場所が必要です。これまで交流型スペースは必要といいながら長続きがしないのは、参加者が少ないとやめてしまうからです。スペースの設定は誰でも(?)ですが、効果をすぐに求めると続きません。

不登校情報センターはゆるいとはいえ作業中心で引きこもり経験者にはハードルは高いです。ウィークデイのセルフサービス型カフェを設定するのは作業に代わる場をつくるためです。立派なことはしません。週1回くらいを長く続けたいです。少なくとも3人くらい参加してほしいのですが、10人になると多すぎます。

最初は11月5日(火)の夜6時から2時間です。この便りが着いたころは終わっているかもしれません。その後は様子を見ながらですが昼時間がいいのか、別の曜日がいいのか決めていきます。

日時は不登校情報センターのブログ「センター便り」に載せますので見てください。

製本教室という広い意味での創作などを手作りの本やパンフレットの形にする場も継続しそうです。先日はその2回目の製本教室をしました。

これまでに10点以上の本・パンフを作りましたのでそれを持って東京ビッグサイトで開かれる「コミティア」展に出展します。「製本教室はじっこ」という名称で申し込んでいます。

“はじっこ”は不登校情報センターの創作展のきっかけになった太田勝己さんのことばで、これまで開いてきた創作展を「片隅にいる～」とした“片隅”と同じ意味です。

「コミティア」展は来年2月2日なので、それまでにもう一度、製本教室を開くつもりでいます。

事務作業グループという居場所グループがあり、2、3人が主に水曜日と金曜日に2時間ほど事務的なことをしています。2月途中から始めたので8か月がすぎました。途中引っ越しもありましたが、この作業グループが定期的に作業をしてきたおかげで、とくに学校や支援団体の情報収集にかんする事務的な整理が進みました。こういう作業は女性にむいていると思いますが、継続できるのはこの場所になじめるかどうかにかかっています。その意味でこの事務作業グループも居場所の取り組みのひとつです。

これまでの居場所の中心作業は**サイト制作**です。2003年あたりから始まりいくつかの変遷を経て今日に続いています。10年の作業のおかげで不登校情報センターのサイトは非常に高いレベルになりました。

このサイト制作に新しいテーマを取り入れ、大幅な改造に向かおうとしています。そのテーマは、利用しようとする人が探そうとする情報にたどり着きやすいものすることです。探すことや場所や名称がわかっているときにそこにたどり着くのは簡単です。「引きこもっているが、すぐに働くのではなく人とつながるところから始めるにはどうすればいいのか」という相手先が特定しがたいときの情報検索しやすいホームページにすることです。

このサイト制作はどうすればいいのかの試行錯誤を繰り返し「ここはこうする」という過程を試しながらつづけることになりそうです。

この**新しいテーマ**は、事務作業グループの情報整理のために受け取った学校や支援団体の自己紹介用紙を見ているときにひらめいたことです。受け取った学校や支援団体の情報はそれぞれ紹介しています。それがこれまでのサイト制作です。ざっと2000ほどの学校と支援団体の情報を載せています。

ですがそれをうまく読み取れる人は少ないと感じたのです。事務作業をしている人に「この学校の特徴は？」と聞いても、そう的確には答えられません。私が長くこのような情報を見てきたからわかるのであって、そう簡単には読み取れないのです。

この読み取っていない状態、紹介文を見るだけでは見過ごしてしまいやすい情報を生かすことがサイト制作の新しいテーマになると浮かんできました。

自宅でパソコンを使いながら引きこもっている人は多いです。そういう人の協力を得ることができれば、それは逆に、彼ら彼女らが社会に関わる糸口にできるかもしれません。それがこの「学校・支援団体の紹介をするサイト制作」です。

そのとき新しく参加しようとする人が情報センターに来るだけではなく、在宅のまま取り組める方法も研究中です。実際の状況を見聞きしながらお互いにできることを形にしていきたいと思います。

◆今後のお知らせ

(1) 「訪問サポートを考える親会」

●うちの子は誰にも会わないと、あきらめないで下さい。
メンタルフレンドとかかわって、不登校やひきこもりの子供たちが、学校やバイトなどを含めた多様な形で社会と繋がっていきます。
まずは、一緒に考えましょう！！

*日時： 11月16日(日) 13時～15時30分。

*参加費：500円。 *対象：不登校・未就労の子供の親

(2) 第14回不登校・未就労の対応「ミニセミナー&質疑応答の会」

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと・・・など専門家と一緒に考えていきます。

*日時：11月9日(土)、13時～16時。 *参加費：500円

*対象：10代および20代前半の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*日時：11月10日(日)、13時～15時。

*参加費：500円

*対象：親・体験者・学びたい人

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所：NPO 法人不登校情報センター(総武線「平井」南口・徒歩5分)

◎地図はHP参照。



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポートトカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokanet/